まえがき

本書は、二〇二一年に五回にわたって開催された「日本における第二次世界大戦の長期的影響に関する学際シンポジウム」の成果を世に問うため、各発表者が、発表内容もしくは発表内容に関連する課題についてあらためてまとめた論考で構成されている。

シンポジウムは、日本が経験した第二次世界大戦（アジア・太平洋戦争）を、従来にない視点を加えて検討することを目的としていた。それは、精神医学・心理療法という臨床学の視点と――それに付随するものだが――トラウマの、とくに文化的トラウマの視点である。第二次世界大戦は、現在の国際情勢に関係する巨大な事象であり、それをめぐる議論が国際的・国内的政治の影響を受けることも稀ではない。シンポジウムは、今述べた視点に立って、特定の政治的立場に拠るものではないことを旨として進められてきた。そうした企画が生まれた原点にあたる竹島正氏とオイゲン・コウ氏の出会いについては、本書「あとがき」にくわしい。

トラウマの十分な理解が普及しているとはいえない現在だからこそ確認しておきたいが、心理療法の実践とトラウマ理解から考えたとき、戦争体験をトラウマの視点を含めて検討するには、心的なトラウマに焦点を当てるのみでは足りない。それを引き起こした出来事の事実と、その出来事が引き起こした身体・心理・社会への作用、

そして社会におけるその扱いといった、事象の全体を視野に収める必要がある。その視野は、もちろん、第二次世界大戦あるいはアジア・太平洋戦争が引き起こしたトラウマだけでなく、それ以前の日本の歴史文化的トラウマにまで拡張する必要があるだろう。対策も、それら複数の視点から、そして長期的視点に立ってなされねばならない。そうした見方は、「生物心理社会モデル」という言葉――トラウマの一つの形であるＰＴＳＤについてもこのモデルの重要性が指摘されている――で表現されるものである。心理的側面以外の知見も幅広く確認し共有するために、あるいは社会の対応について考えるために、歴史学、社会学、ジャーナリズムをはじめ、日本の戦争体験にさまざまな分野で向き合ってきた方々に協力を仰ぎ、共同して作業に取り組んだ成果が本書である。

構成を具体的にいえば、まず第Ⅰ部で、日本における第二次世界大戦の経験を構成している事実を確認し、第Ⅱ部で、戦争で起こった事態に対する社会の、あるいは国の対応をたどる。第Ⅲ部では、日本の戦争体験の処理において極めて重要であり、個人から国まで、また文化にも浸透している加害－被害関係における立場を検討し、第Ⅳ部でそれら全体を踏まえた長期的影響を考える。第Ⅴ部には、発表者以外の三名によるシンポジウム全体への応答と、最終回で行われたオイゲン・コウ氏の講演を収録している。

言うまでもないことだが、たとえば事実を確認する第Ⅰ部に収録された主題で戦争の事実の全体をカヴァーできるわけではない。しかし、たとえ扱う範囲は限られるとしても、第Ⅰ部あるいは第Ⅱ部が扱うような事実への視点をもちながら、続く各章が扱う内容のそれぞれに注目していくことが重要と考えているわけである。

本書は、たとえば本書の部の一つが扱う主題に絞って論考をまとめた本や、一つの学問分野のなかで編集された本とは性格が異なり、個々の主題に関する記述量は少ないかもしれない。しかし逆に、戦争というトラウマ的事象を全体として捉えようとし、各分野の研究者、実践家の共同によって取り組むことでこそ可能な視野がこのプロジェクトによって得られ、表現することができたのではないかと考える。

最後に付け加えると、二〇二一年のシンポジウムで用い、本書のタイトルにも採用した「第二次世界大戦」と

いう概念では捉えられない範囲の事象を、本書は扱っている。日本が経験した戦争を、地域を限定しつつ時間的により長いスパンで捉えるために「アジア・太平洋戦争」「一五年戦争」などの概念が使われることも多い。章によって対象の範囲や視野が異なることから、本書ではあえて呼称の統一は行わず、各執筆者に選択を委ねることにした。いずれを用いるにせよ、広い視野において日本の戦争体験を学際的に考えるこのプロジェクトが、おびただしい戦争研究のなかで、あるいはそれらの成果を踏まえて、この領域のある空白を埋めることになれば幸いである。

森　茂起

目次

まえがき……森　茂起　3

［第Ⅰ部　日本における第二次世界大戦の経験］

第1章　［実践報告］第二次世界大戦と日本に関するドキュメンタリー番組に取り組んで……東野　真　19

はじめに／ドラマ『おしん』の先駆性／一九六〇年代に始まった戦争体験の記録／一九八九年という「転換点」／戦争体験の継承と「トラウマ」／「戦争体験」をめぐるドキュメンタリーの課題

第2章　戦争はどのように拡大し、何が起きたのか
——日本の中国侵略から太平洋戦争への道……伊香俊哉　33
日中戦争への道／日本軍の戦争犯罪／アジア太平洋戦争と敗戦／むすびにかえて

第3章　労働力動員からとらえる日本の戦時体制……佐々木啓　49
はじめに／労働力動員政策の展開とその特質／労働力動員の実態とその重層性／戦後世界への影響／おわりに

第4章　「戦争孤児」たちが最も苦しんだのは「親戚」「家族」……本庄　豊　63
「戦争孤児」研究の始まりと展開／あんなに優しかった人たちが鬼のように／証言から史料の発掘へ／集団「脱走」による退園／「戦争孤児」と嘘をつく／中学女子の孤児／「戦争孤児」と強制不妊手術

第5章　かろうじて語られること・それでも語られないこと
——四つの論考から考える……宮地尚子　74
はじめに／四つの論考から考えたこと／かろうじて語られること

[第Ⅱ部　日本の戦争への対応]

第6章　[実践報告] メディアの戦争責任に関する断章
——国策通信社の末裔として絵本『かわいそうなぞう』を読む……佐々木央
問題を論じる力が欠如する理由——自己紹介を兼ねて／テーマの読み換え——国策通信社の末裔／絵本『かわいそうなぞう』の虚偽　87

第7章　戦時下の軍人の妻の立場について
——一九四三・四四年の軍事援護学会における議論……一ノ瀬俊也
はじめに／軍事援護学会の設立／軍事援護学会法律委員会の提言／刑事部会研究委員会／おわりに　102

第8章　戦死者はどのように扱われたのか？
——日本における海外戦没者処理の展開……浜井和史
はじめに／戦前期における海外戦没者処理／戦後における遺骨収集事業／遺骨収集事業の特質と問題点／おわりに　113

第9章　追悼の形式――悲劇的な出来事と文化的トラウマ……粟津賢太　127
はじめに／マス・デス（大量死）のインパクト／戦争記念碑（War Memorials）／英連邦戦争墓地／黙祷儀礼／日本への導入／集合的行為としての「遥拝」／対抗的記憶／むすびにかえて――社会的危機と儀礼

第10章　戦後日本の「喪の不能」と神話的思考――恥と罪悪感のあいだ……荻本　快　143
フロイトの「喪の作業」とミッチャーリヒの「喪の不能」／戦後日本の神話的思考――イザナキ・イザナミ神話より／恥と罪悪感――「見畏み」に向けて／結　論

［第Ⅲ部　トラウマとポジショナリティ――戦争の被害者・加害者としての日本］

第11章　［実践報告］慰安婦被害者の聞き取り調査という体験から気づかされたこと……岡　檀　157
戦争被害者のオーラルヒストリー／〝被害〟とは何か――ある慰安婦被害者の語りから／慰安婦被害者の願いは何か／戦後も続く被害者の苦しみを強めたもの、和らげたもの／現在の研究テーマへのつながり／何を聞き、どのように記録に残すのか／〝事実〟だけが〝真実〟ではない／経験の浅いインタビュアーが陥りやすい過ち／むすびにかえて

第12章 「いけにえの島」における住民と兵士の相克、そして沖縄戦PTSDの発見……蟻塚亮二 167
「ヨソモノ」だから見えることもある／琉球処分——琉球王国の植民地化／琉球語の廃絶、同化と差別／時間稼ぎのための沖縄戦／集団自決／晩発性PTSD／沖縄に対する差別と沖縄戦が今も与える影響／故郷の山や景色は自分の一部／沖縄の人は悲しむことができる

第13章 日本軍兵士と「加害者のトラウマ」……中村江里 179
はじめに／「普通の」兵士たちによる戦争犯罪／加害行為とそれによるトラウマの語りにくさ／兵士たちのトラウマ——加害と被害の二重性から考える／おわりに——加害者のトラウマ概念の提起する問題と課題

第14章 なぜこんな目に遭わなくてはならなかったのか——原爆被害者の苦しみとその意味の追求……根本雅也 194
はじめに／原爆がもたらしたさまざまな被害／心の傷——被害のなかにある〈加害〉の意識／死や苦しみに意味はあるのか——一九八五年の原爆被害者調査の検討／おわりに

第15章 コミュニティ心理学からみたトラウマ——四つの論考から考える……川野健治 207
罪悪感と応答するポジション／持続するコミュニティの力／トラウマが語られるところ

［第Ⅳ部　第二次世界大戦の長期的影響］

第16章　［実践報告］日中戦争によるトラウマの世代間連鎖と修復の試み……村本邦子
はじめに／世代間連鎖する帰還兵のトラウマ／ＨＷＨとの出会い／日中戦争をテーマにしたＨＷＨの取り組み／成果と課題／おわりに　219

第17章　第二次世界大戦のメンタルヘルスへの影響
――自殺に焦点を当てて……竹島　正
はじめに／方　法／人口動態統計による自殺率の推移／『統計實話』と「精神衛生資料」／第二次世界大戦前に出版された書籍／第二次世界大戦中の自殺の減少／第二次世界大戦後の自殺の増加／まとめ――戦争は自殺にどのように影響したか、そこから学ぶことは何か　232

第18章　「身体化された軍隊経験」、「復員兵の子」というポストメモリー……蘭　信三
はじめに／ある陸軍下士官の軍隊経験／復員兵の戦後家族のなかの「戦争」、そのポストメモリー／「復員兵の子」というアイデンティティ　245

第19章　なぜ日本人は戦争体験をオープンに語り、経験を振り返ることができないか……森　茂起　260
問いは成り立つか／トラウマの性質／「戦争の子ども」インタビュー／「語れなさ」の重層性／「日本」の困難

第20章　沖縄戦の記憶と「沈黙の共謀」――四つの論考から考える……北村　毅　273
「沈黙の共謀」という問題／沖縄の精神医療と「沈黙の共謀」／歴史的・文化的トラウマへのアプローチ／加害体験と「沈黙の共謀」

［第Ⅴ部　連続シンポジウムへの応答］

第21章　トラウマを学びつつ、旧満州に渡った女性たちの語りを振り返る……杉山　春　285
『満州女塾』の語り手たち／女塾が生まれた歴史的背景／子どもや若者、女性たちが守りを失うとき／支配とコントロールとは何か／弱者の苦しみを科学する力が生み出すもの

第22章 トラウマ記憶の抑圧・否認をめぐる文化的構造
——表象文化論および映像研究の立場から……角尾宣信 301
トラウマを抑圧する日本社会／三つの視座——「文化的トラウマ」「加害者のトラウマ」「沈黙の共謀」／表象文化論・映像研究からの応答

第23章 海外の精神科医の視点から
——戦争で反対の立場にいた者の子孫として……キャリー・チェン 314
背　景／シンポジウムの振り返り／インパクトと示唆

第24章 ［講　演］日本の第二次世界大戦のトラウマを癒す
——世代間、集団的、文化的観点から……オイゲン・コウ 323
はじめに／全体像／個人のトラウマとその長期的影響／トラウマと集合的心／世代間および文化的トラウマの癒し／外部者の見方

あとがき……竹島　正 343